

「福祉体験プログラム」の紹介

「在宅介護相談コーナー」における体験

新潟市総合福祉会館1階に「在宅介護相談コーナー」があります。
ここでは「在宅介護全般に関する」総合的な相談を受けており、体験する事ができるメニューもあります。

「体験できるプログラム」について

1. 「高齢者疑似体験」

疑似体験セットを装着することで自分が80歳位の高齢者になった状態を擬似的に体験するものです。手足にサポーターや重りをつけて、重り入りのチョッキを着ることで加齢による筋力、体力の衰えを体験します。また、高音域をカットする耳栓（高齢者になると高音域が聞き取りづらくなります。）白内障による色覚変化を再現する眼鏡をかけて、日常生活における高齢者の暮らしがどのように不自由なのかを体験します。（※白内障～高齢者になると多く発生する眼疾患の一つ。）

＜質問＞「1回に体験できる人数は？」

- ・体験時間は、1人40分位かかります。
- ・体験セットは、学童用は15セット、大人用は5セットあります。
- ・所要時間90分間程度で体験できる人数は、学童は40人まで、中学生以上は10人です。
- ・事前に予約をお願いします。

（団体でのお申し込みにつきましては、概ね体験希望日の一ヶ月前迄にご相談下さい。）

2. 「在宅介護相談コーナーでの体験」

介護用品の展示や住宅をバリアフリーにするための展示コーナーがあります。ここで様々な福祉用具・機器をつかった体験が可能となります。

実際に介護ベッドを使用してみたり、階段を座ったまま登る機器（階段昇降機）での体験など様々です。

＜質問＞「1回に体験できる人数は？」

15～20人位が、見学しやすいと思われます。
時間も、人数もケースバイ・ケースです。ご相談下さい。

どちらの体験も、お気軽にお問い合わせ下さい。

＜在宅介護相談コーナー＞
TEL：025-248-6283

<全国社会福祉協議会主催「福祉教育セミナー」(東京)の報告です。>

「全国福祉教育セミナー」に参加させていただいて

新潟市立紫竹山小学校 教諭 小林 靖直

160名を超える参加者のなか、教員として参加していたのは、私を含め5名であったと記憶している。教員を対象とした研修とはまた違った熱い思い・願い・実践から学ぶことも多く、たいへん有意義な経験だった。

1日目の「基調報告」「実践トーク」、2日目の「分科会(世代間交流プログラムで地域を有機的につなぐ、に参加)」と、内容も盛りだくさん。そして、どの事例も、確かな理念に裏打ちされた意義深い実践であった。紙幅の都合上、それぞれの事例の詳細をお伝えすることはできないが、多様な実践に学ぶなかで、私なりに次のような確信を得た。

福祉教育を推進していくためには、次の2つは不可欠である。

- 地域に根ざし、地域とともに歩む姿勢。
- 様々な組織の協働とそのネットワークを構築すること。

地域の特性や課題を踏まえ、地域にある人的・物的資源を有効に活用していくことが、意味のある活動を継続していくことになるのではないかと考える。

また、そのためには「協働」することが必要である。いろいろな組織が単独で活動しても限界がある。社協、学校、自治会(地域住民の方)、商工会、行政・・・、いろんな組織が協働することで、ダイナミックな活動が展開されていくのだろう。そして、結果的にそれが、広く地域に「福祉の心と姿」を根ざすことになるのだと考える。

「行動連携できるネットワークの構築」を願い、そのためにできることを、学校教育現場の立場から私なりに考え、実践していきたい。

平成17年度 全国福祉教育セミナー 「社協がやらねば誰がやる～小さな一歩から大きな変化～」

新津地区ボランティア活動支援センター 横山めぐみ

9月26日(月)～27日(火)、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました福祉教育セミナー。簡単にご報告させていただきます。

学校の依頼により疑似体験、手話、点字など多くのことをこなしている社協が多い。やりっぱなしで終わっているのではないか。知識をうえつけているだけで、問題発掘をしていないのが現状です。疑似体験をするだけであると、障害を持つ人や高齢者に対して、自分はお世話をする人と思いき。そうではなくて、例えば作業所の人たちなどから教わりながら人間形成をしていくことが大切になるのではないかと、といったお話しがありました。

福祉教育は社協全体で考えていかなければならない課題です。学習を進めるにあたっては①地域にめざめているか②地域の資源に詳しくなっているか③地域とともに歩めるか(協働への思いをもっているか?)が大切です。この3つの意味は、とても深いように思います。今現在ほとんどの社協は福祉教育を進めるにあたっては、打合せや目標などの確認ができず、話し合いができていないようですが、これからはお互いの目標、意図するところを共有することが必要です。先生方の日ごろの忙しさもでていましたが、これからのことを一緒に考え、話し合いたいものです。

～小林先生、横山さんありがとうございました～

「福祉教育・ボランティア学習セミナー」の報告

去る、11月14日（月）新潟市総合福祉会館において「福祉教育・ボランティア学習セミナー」を開催しました。学校関係者、施設職員、民生委員、ボランティア等が一堂に会し、基調講演・事例発表・シンポジウムの3部構成で行いました。

学習院大学教職課程の助教授長沼豊さんから「福祉教育・ボランティア学習で心を育てるために」と題して、他者理解、社会理解、自己理解とそれらを通した「生き方発見」、学校や地域でおこなう福祉教育・ボランティア学習のポイントについてお話いただき、連携・協働の在り方については「納豆型社会」を築いていく事が大切とのお話がありました。

次は新潟市社会福祉協力校の生徒さんからの事例報告でした。紫竹山小学校（松沢さん・森久さん）・白新中学校（野崎さん、松下さん）・新潟東高等学校（横木さん）からは「総合的な学習の時間」における取り組みや、その授業に対する想いを語っていただきました。パソコンでの映像を使ったり、模造紙を使いながらの説明等・・・目を見張るものがありました。

最後に「連携」をテーマにしたシンポジウムです。送り出しの立場で、木澤さん（新潟市教育委員会）・長谷川さん（二葉中学校教諭）から送り出しの側、星さん（ワークセンター日和山）・関さん（視覚障害者で学校サポーター）からは、受け入れ・支援する立場で・・・と、それぞれの現状や課題について報告していただきました。今後に向けての部分は時間の関係で報告できませんでしたが、最後は学校の先生へのエールでおわりました。

参加されたみなさんからは「次回が楽しみ」とのお言葉をいただきました。

ボランティアセンターは福祉教育・ボランティア学習 を応援します。

「福祉体験学習」や「障害のある方のお話を聞きたい」等の授業を計画されているようでしたら、ボランティアセンターまでお気軽にお電話ください。

<項目>

どんな内容を希望していますか？

福祉体験？お話し？内容によって進め方が違ってきます。

会場はどこですか？

学校？新潟市総合福祉会館？

人数を教えてください。

複数の講師、広い会場を確保しなければなりません。

備品の貸出しについて(数量に限りがあります。)

車椅子、白杖、アイマスク、点字練習器、ビデオ、ボランティアカルタ 等

その他

点字や手話の学習、当事者からお話しを伺う等、ボランティアセンター職員以外の方をお願いする場合があります。その場合、交通費や謝礼をご用意いただくとありがたいです。

また、より良い内容にするために、先生方にできるだけボランティアセンターにおいでいただくようおすすめしています。顔をあわせての相談をしましょう。

●講師派遣依頼文書・備品借入申込書・視察依頼書等が必要です。